

令和8年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第5号
(7月後半の発生予想)

令和8年7月10日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【水稻】

葉いもち	量：並 程度：少発生 (発病度1~20)	① 7月上旬の発生量は平年並。(±) ② BLASTAM によるいもち病感染好適条件は、6月第5半旬以降、広域的に出現している。(+) ③ コシヒカリBLの発病抑制効果は高く維持されている。(－) ④ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。(－~±)
穂いもち	量：やや少ない 程度：少発生 (発病度1~20) 時期：やや早い	① 7月上旬の葉いもち発生量は平年並。(±) ② 水稻の出穂期は平年より早まる見込み。 ③ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。(－~±)
紋枯病	量：並 程度：少発生 (発病度1~20)	① 7月上旬の発生量は平年並。(±) ② 水稻の茎数は概ね指標値並。(±) ③ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。(＋~±)
稲こうじ病	量：やや少ない	① 前年の発生量は平年比やや少なく、伝染源量は平年比やや少ないと推測される。(－) ② 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。(－)
セジロウンカ	量：並 程度：少発生 (最高寄生数1~25) 時期：やや早い	① 6月22日に初確認で時期は平年比3日早い。(±~+) ② 7月上旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ツマグロヨコバイ	量：並 程度：少発生 (最高寄生数1~25)	① 7月上旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【水稲】（つづき）

斑点米カメムシ類	量：やや多い	① アカスジカスミカメの7月上旬の畦畔すくい取り調査における虫数、確認地点率ともに平年並。（±） ② アカヒゲホソミドリカスミカメの7月上旬の畦畔すくい取り調査における虫数、確認地点率ともに平年並。（±） ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。（+）
【防除上の留意事項】 ① 斑点米カメムシ類は出穂したイネ科雑草に寄生し、増殖するので、これらの雑草が出穂する前に畦畔の草刈りを行い、水田侵入前の発生量を抑制する。 ② 水田内雑草（ノビエ、イヌホタルイ等）の繁茂・結実は、カメムシ類の水田侵入・増殖を助長するので早めに除去する。 ③ 新潟県農作物病害虫雑草防除指針を参考に適期防除を徹底する。		
コブノメイガ	量：並 時期：並	① 7月上旬の被害発生は未確認で発生量は平年並。（±） ② 佐渡市に設置したフェロモントラップでの誘殺は未確認。（-）

【大豆】

ウコンノメイガ	量：少ない 時期：並～やや早い	① 前年の発生量は平年比少ない。（-） ② 7月上旬では被害（葉巻）は未確認で、発生量は近年比やや少ない。（-） ③ 向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～-）
【防除上の留意事項】 ① 少発生が予想され、防除が必要なほ場は少ないと見込まれる。葉巻数を調査して防除の要否を判断する。 ② 防除要否の判断基準は畝1m当たりの平均葉巻数で、7月第5半旬では6個以上、7月第6半旬では24個以上では防除が必要である。 ③ 防除時期は7月第5半旬～8月第1半旬で、薬剤によって散布適期が異なるので、新潟県農作物病害虫雑草防除指針を確認する。		
食葉性鱗翅目幼虫 （ウコンノメイガ以外）	量：並	① 7月上旬ではツメクサガ等の食害が確認され、発生量は平年比やや少ない。（-） ② 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（±）

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください ～

注1：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の5段階で表記しています。

②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注2： 「予報の根拠」の、(+)は発生量を増加させる要因、(-)は発生量を減少させる要因、(±)はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

【新潟県農薬危被害防止運動実施期間：6月1日～8月31日】

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後7日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

【参考】北陸地方 1か月予報（7月11日から8月10日までの天候見通し）

（新潟地方気象台：令和8年7月9日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。

2週目は、高い確率50%です。

3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
平均気温	10	40	50
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
1週目（7月11日～7月17日）	10	20	70
2週目（7月18日～7月24日）	10	40	50
3～4週目（7月25日～8月7日）	20	40	40